|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施設長 | サビ管 | 世話人 | 世話人 |
| 　　 |  |  |  |

議事録（スタッフ会議）・第6回

2021年9月28日（火）

15：00～16：30

参加者：田中施設長、芳賀サビ管、江畑、丸山、

1. 高麗川防災様立ち合いによる防災訓練
	* 1. 消火器訓練　（参加：施設長、芳賀サビ管、江畑、丸山。利用者の野中さん）

コーンを火元に見立て活動を行った。事前に消火器の使用方法を下記の通り高麗川防災の職員から教えてもらった。

消火器の黄色のピンを取り火元に近づいてから、ホースを火元に向けてレバーを握って噴射をする。火元が小さなうちに消火を行うと良いという事。火が強くなったら避難するよう指導があった。また、大声で火事が起きている事を周囲に知らせる事も大切との話があった。

利用者の野中さんは、訓練経験があるとの事。慣れた手つきで消火器を操作していた。

訓練後、消火器は非常口近くに配置してあることを全員で確認。(職員。利用者共有)

（2）火災を想定した、避難訓練・キッチンからの出火を想定した避難訓練

火元がキッチンであることを想定して、通報時の消防とのやり取りをシュミレーションと避難時の仕方を確認した。

・火元から遠い非常口から避難する。

・非常口がどこにあるか日常的に意識する。

・靴を履き替える事は考えずに、とりあえず安全なところに逃げる。

　　●通報訓練

　　　職員同士で、消防署とのやり取りを以下の手順でシュミレーションした。

1，119番をする

2、火事か救急かを伝える（今回は火災を想定しているので火事と伝えた）

3，場所：東松山市新郷466－1　グループホームしんごう

　　4，目印：　旧国道254号入り、セットのオレンジ看板が目印。右折して突き当りにある。

　　5，人員の報告：職員〇名 利用者〇名　うち〇名は避難済み（取り残されている人、けが人の有無も報告）

6，火災の状況（何がどのくらい燃えているか）を伝える。

（感想）

火災が起こらない事に越したことがないが「もしも」を想定しておくことは、常日頃必要であることを職員間で確認し合った。

通報した際に職員、利用者が無事であるか。火元はどこであるか。消防車が向かう際、何を目印にして来てもらうかを、職員間で消防役と通報役と分けて行った。

シュミレーションは、もしもの火災を想定し、幾度か繰り返しておくことで、スムーズな情報のやり取りができるよう必要であると感じた。そのためロールプレイを職員間で実施した。

消火器の操作方法も、普段使用しない分いざという時に操作が出来ないといった場合も考えられた。実際に訓練では水の入った訓練用の消火器を操作したが、慌てていて消す事に頭がいっている時は、最初のピンを抜く事すら忘れてしまいそうな気がした。使い方をきちんと知っておくことも、大切だという事がわかった。

1. 野中さんのモニタリング

・モニタリング記録表を元に今後の支援について話し合いを行った。

* 1. 薬に日付を書き、職員が薬を手渡しして服薬。本人からも「薬をお願いします」と申し出ができるようになり、服薬をするという意識が出てきてきた。野中さん本人も服薬の管理に関して「ありがたい」「飲み間違えが無くなり安心している」と言っていた。

→本人の服薬管理に関しては今後も職員が継続して行う。

* 1. 不安なことや相談したい事が出てくると、自分から発信ができるようになってきた。「お薬はありますか？」と不安に感じた際に夜寝る前は訴えがあったが、最近は無い状態、不安に感じる事を自ら伝えて安心感を得る事ができるようになった。

→本人が不安を感じ、訴えがあった際には、話の場を設け、引き続き不安を取り除けるようにする。

* 1. リハビリパンツの購入の周期を考え計画的に、いわはなの利用相談を自らできるようになった。

→自分に必要なことに関して、計画的な行動ができるようになってきた。

* 1. 日中活動（フリークスアッド）に安定して行けている。

→フリークスアッドへ毎日楽しく行くことができている。

・今後について

1. 清潔の保持について

・布団、寝具の洗濯や部屋の掃除をして清潔の保持をはかる。

・毎週日曜日シーツを洗濯する。

・天気のよい日は布団を干す。

1. 絵については、インスタやTwitterに投稿するなどしてサポートしていく
2. 新しく入居した衛藤さんの声が大きい事に関しては病気のせいであることを伝える。
3. 洗面台が使用後濡れている事について

→みんなで気持ちよく使用できるように声掛けをしていく。　犯人捜しはしない。